

C&Cユーザーフォーラム ヒューマンライフイノベーションシンポジウム 「人・社会と情報システムとの融合の在り方とは？」



NEC 執行役員 中央研究所 所長
國尾 武光

2008年11月11日から13日まで、東京国際フォーラムにおいて「C&Cユーザーフォーラム&iEXPO2008」が開催されました。その11日には「人・社会と情報システムとの融合の在り方」を全体テーマとする「ヒューマンライフイノベーションシンポジウム」が開催され、NEC 執行役員の國尾武光中央研究所長のごあいさつに始まり、大橋弘忠東京大学教授と金子郁容慶應義塾大学大学院教授による基調講演、引き続いてこの3者によるパネルディスカッションが行われました。(文中敬称は省略)

【ごあいさつ】 NECの考える、リアルとサイバーの融合の在り方

最初にこのシンポジウムの主旨についてご説明したいと思います。シンポジウムの題は「ヒューマンライフイノベーション」となっておりますが、これは言い換えれば「豊かな社会をどう作るか」ということではないでしょうか。「豊かな社会」を求めるのは、「なくては困る」という継続的なニーズと「足りない、もっと」という向上的なニーズだと言われます。現代の社会はリアルな社会とサイバーな社会が連携して構成されています。NECはサイバーつまりC&C技術を通してこの豊かな社会作りに貢献することを企業理念としてきました。C&C技術は、コンピューティングの大規模システム化と通信のデジタル化という2つの軸で発展してきたのですが、これからどうなるのか？リアルな空間とサイバーな空間がどう連携するのかを考えてみたいと思います。

過去においては、情報化社会が生み出す価値というのは、省力化や効率化、コスト削減といった指標で測られました。いろいろなサービスも生まれました。それが時間とともにより高い次元の価値、より広い分野と進んで来たと思うのですが、それがこれからどうなるのかも、このシンポジウムで議論したいと考えています。例えばサービスの範囲は、最初は公共や企業対象であったものが、徐々に個人サービスに向かっていくようです。それだけリアルの世界とサイバー世界の連携、個人と社会システムの繋がりはますます強まっているのではないのでしょうか。

これから2010～2020年にかけて、システムはもっと巨大で複雑になるはずですが、それはどのようにデザインされるべきなのでしょう。また、リアルとサイバーの融合がどう暮らしを変えるのかも気になります。大橋・金子両教授のお話を伺った後に、パネルディスカッションでさらに議論を深めたいと思いますので、皆様、最後までお付き合いください。

*本稿は、C&Cユーザーフォーラム&iEXPO2008において、2008年11月11日のヒューマンライフイノベーションシンポジウムにおけるNEC執行役員中央研究所長國尾武光の開会挨拶の内容を、NEC技報編集事務局にてまとめたものです。